

豊山町子ども・子育て会議議事録【公開用】

1 開催日時 令和5年2月21日（火）午後3時30分～午後5時

2 開催場所 豊山町役場3階 会議室3・4

3 出席者

(1) 豊山町子ども・子育て会議委員（敬称略）

委員 摂南大学 学長付 特任教授	堀田 裕子
小児科医師	野崎 千佳
天使幼稚園	今野 真紀
社会福祉協議会	岡島 清隆
民生委員協議会	山本 佐知子
子ども会連絡協議会	坪井 貞子
保育園父母の会	田中 佳奈子
グループゆめっこ	村瀬 三恵子
公募	竹内 智恵子

(2) 事務局

町長	鈴木 邦尚
生活福祉部長	日比野 敏弥
子ども応援課長	林 真吾
指導保育士	小辻 紀代美
子ども応援課 グループ長	牧野 礼男
子ども応援課 社会福祉士	大山 かなえ

4 欠席者（敬称略）

母子寡婦福祉協議会	石黒 善美
-----------	-------

5 議題

(1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の取組状況について

(2) 「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との連携について

6 会議資料

資料1 豊山町子ども・子育て支援事業計画の取組状況

資料2 「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との連携について

7 議事内容

(1) 会議の開会

【子ども応援課長】 ただ今から、豊山町子ども・子育て会議を開始する。
はじめに、本会議の議事録についてご説明する。

町では、情報公開の一環として、審議会や委員会等の議事録を、町のホームページに掲載している。本会議もその対象になり、どのような論議がされたか、要旨を抜粋して、議事録をホームページに掲載させていただく。

(2) 委嘱状伝達（補欠委員のみ）

(3) 町長挨拶

【 町 長 】 日ごろは、町行政各般にわたり、格別なる御理解と御協力を賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また子育て事業に関しても皆様のご支援に感謝申し上げます。

私自身の町制に係る最重要課題が子育て施策である。昨年の4月に新しく子ども施策を包括的に支援できる課として子ども応援課を立ち上げた。子ども支援課ではなく子ども応援課にした理由として子どもそのものを町として応援していくんだという着眼点で子ども応援課を設置した。子どもがいる家庭が生活しやすい、子どもを産みやすい環境を作ることが町の課題だと感じている。

本町では新型コロナウイルスの影響と思われるが出生数が低下しており、全国的にも同様に低下している

当初は人口が1万6000人を超えることを想定していたが、令和3年度に出生数を死亡者数が初めて上回った。また、昨年より転入者よりも転出者が上回っている。

その中で今年度青山保育園に0，1歳児保育を開設し、待機児童の解消に努めた。年度途中には子育て世帯に活用していただくために子育て応援アプリを運用し、少しずつ利用者も増えてきている。先日豊山保育園にて病後児保育を開設。役場1階子ども応援課窓口前に職員の提案で親子交流スペースの開設と、授乳室の整備を進めている。まだまだ十分とはいえないため、今後もあらゆる視点で取

り組んでいきたい。本日の会議は、忌憚のないご意見をいただくようお願い申し上げます。

【子ども応援課長】 町長は他の公務のため、ここで退席させていただく。

(4) 自己紹介（補欠委員のみ）

(5) 議題

【子ども応援課長】 本日の出席委員数は、10名中9名であり、豊山町子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席があるので、本日の会議は成立していることを報告する。

ここからの議事進行は、会長に願います。

【 会 長 】 議題「第2期子ども・子育て支援事業計画の取組状況について」、事務局より説明を求める。

【グループ長】 (資料 説明)

【 会 長 】 ただいまの事務局の説明に対して、意見・質問があればお願いしたい。

【 A 委 員 】 5点質問がある。1つ目は、3番の待機児童についてである。資料にある数字は毎年同じ人が待っているということか。

2つ目は、9番の事業のおしゃべりテラスについて、昨年も同様の質問をしたと思うが父親も参加できているのか。現在の会員者数、イベント参加者の男性の割合について知りたい。

3つ目は、12番の事業について、産後ケア事業に利用実績がないようだが、手続きが複雑なのではないか？

4つ目は、14番の放課後児童クラブについて、何時まで受け入れているのか。

5つ目は、15番の事業のK i k o t t oアプリについて、とてもいい取組だと感じたが、今後さらにどういった予約ができるようになるのか？例えば先ほど申し上げた産後ケア事業等の予約ができると良いのではないか。

【グループ長】 1つ目の待機児童について、同じ方ではなく新たに入園を希望された方の人数である。

2つ目のおしゃべりテラスは男女問わず参加を呼びかけているが実際参加されているのは女性が多い。男女の会員数については

今この場でお答えすることができないので後日お答えする。

4つ目の放課後支援事業については午後6時半まで開設している。

5つ目のK i k o t t oアプリの拡充についてできる事業から取り組んでいきたいと考えている。

【子ども応援課長】 補足する。おしゃべりテラスは毎月行っており、私も何度か参加している。実際父親が小さいお子さん二人連れて参加されていた。会員数の割合は知っている限りでは1名の登録がある。塾の送り迎え等であれば男性の提供会員でも可能。そこも含めて課題と考える。

産後ケア事業については保健センターの所管ではあるが実情をお伝えする。令和3年度より開始したが実績がない。利用がない原因として場所が病院だということ、事前申請が必要ということ、産後4カ月までしか利用ができないという制約があることが考えられる。今後産後1年まで利用ができるよう拡充を図る予定である。利用者の声を聴きながらニーズに応じていきたい。

【生活福祉部長】 産後ケア事業の補足をする。実績はないが、実際数件問合せがあった。問合せがあった中でコロナ禍で配偶者がリモートワークに切り替わり、日中協力が得られるという理由で利用に至らなかったケースがあった。実績がないということでやはり何か利用しづらいのではないかと検討しているところである。1回の利用者負担金が3千円。他自治体は高いところで5千円、安いところで3千円と本町が高いというわけではない。値段についてはこのまままでいく予定。

産後の相談に関しては子ども応援課が行っている子育て相談の他、保健センターの保健師や助産師が自宅に訪問し相談に乗っている。費用はかからないので利用者にとっては利用しやすいと思われる。

【 B 委 員 】 児童館のイベントは基本女性が参加しているのか。イベントも男性が参加しやすいイベントを企画できるといいのではないかと。

【子ども応援課長】 ご指摘のとおり。児童館のイベントで男性に特化したイベントは行っていない。直近の動きとしては母親のみではなく父親も参

加していただこうと、「母子通園施設」の名称を「親子通園施設」と変更した。昨年12月には父親を対象とした療育を行った。

【 C 委 員 】 K i k o t t oアプリの登録者数はどのくらいか。

【 グ ル ー プ 長 】 2月20日時点で216名である。

4月1日より保健センター事業のニューファミリー教室もアプリ予約ができるようになる。今後も予約が必要な事業について拡充予定であり、より多くの方に利用していただきたいと考えている。

【 C 委 員 】 自分もアプリを登録している。母親の他、父親がアプリを登録するメリットがあるといいと思う。父親向けのイベント情報が父親にプッシュ通知がいくようになるとなおさらいい。父親は広報もあまり見ない、スマホを触っている時間は母親よりも長い。アプリの中で父親に役立つ情報をどんどん発信してほしい。

アプリの中のお知らせ情報が児童館のイベントは多いが、神明公園のイベントが通知されない。理由はあるのか？広報、アプリを両方見る人は情報がすべて把握できるが、アプリだけの人は知ることができない。情報量が多いと登録者をもっと増えると思う。子どもたちに来てほしいイベントはどんどん発信してほしい。

【 グ ル ー プ 長 】 ご指摘のとおり。今後発信する情報量を増やしていきたい。

【 D 委 員 】 先日マイナンバーカードの申請で役場に行った際にお子さん連れの方が並んでいた。乳児連れの方で大変そうだったが、途中からきこっとひろばで預かってもらって母親はスムーズに手続きができていた。とてもいいことだなと思った。もっとたくさんの方にきこっとひろばを知ってもらえるようにすると良い。

【 子ども応援課長 】 きこっとひろばは、子ども応援課の皆で子ども連れの住民の方のために設置した。きこっとの名前の由来は「子どもの声を、親の声を、みんなの声を聴こっと」という意味がある。10月に設置した当初は認知度が低く利用されず帰られる方もいたが、最近では役場の職員もお子さん連れの方が手続きに来るときこっと広場で待っていただくよう声をかけている。他の課の職員もきこっとひろばまで出向き対応している。

授乳室は1階リフレッシュルームを整備して設置する。オムツ

交換の他、授乳、相談室として機能する。小さなお子様連れの方の休息の部屋としても利用する予定である。今後アプリでも周知していく。

【 D 委 員 】 きこっとひろばも授乳室も父親も利用できるようにしてほしい。

【子ども応援課長】 実際、きこっとひろばは父親も利用している。母親が手続きしている間にお子さんと一緒に一緒に座って遊び相手をしている。

本町は保育士、社会福祉士がきこっと広場に出向きお子さんの相手をしている。他市町にはできない本町の最大の強みだと考えている。

【 E 委 員 】 ファミリーサポートセンター事業について、保育園に預けている人にとって早朝のサポート等依頼したいときに提供会員が見つからず利用に至らなかった。もう少し提供時間の拡充等内容を充実してほしい。

【子ども応援課長】 ファミリーサポートセンターのアドバイザーとも利用料金や内容の充実について検討している。他市町は塾の送り迎えの支援が多いようだが町は少ない。どんなニーズがあるのか意見を聞いていきたい。

【 F 委 員 】 一時保育はどれくらい前に利用申請すればよいか。

K i k o t t oアプリはとてもいい取組だと思う。幼稚園としても町の利用者にチラシを配ったりすることはできる。

【グループ長】 一時保育は利用希望の月の前月の20日までに申込みを行う。利用は1か月14日以内。

アプリのチラシ配布はぜひお願いしたい。

【 G 委 員 】 ファミリーサポートセンター事業の使い方について、いくつか利用の用途を示すと利用者の引き出しも増えるのではないかと。

【子ども応援課長】 ご指摘のとおり。利用者にはファミリーサポートセンター事業の手引きを渡しているが事務的な手続きのみで利用の用途については示していない。次年度、料金体系も含め、手引きの内容を充実できるように取り組んでいきたい。

【 会 長 】 その他意見・質問がなければ次の議題にうつる。

議題「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」との連携に

ついて、事務局より説明を求める。

【グループ長】 (資料 説明)

【会長】 ただいまの事務局の説明に対して、意見・質問があればお願いしたい。

【C委員】 豊山小学校と新栄小学校の連携型の場合、小学3年生までとなっているが、志水小学校のみなぜ6年生までなのか。

【グループ長】 志水小学校も子ども教室に参加できるのは小学3年生までである。小学4年生から小学6年生は留守家庭のみなかよし会に参加できる。

【C委員】 豊山小学校と新栄小学校の1年生から3年生は子ども教室が終わった後は、学校からなかよし会に歩いて移動するということか。

【グループ長】 その通り。

【D委員】 1年生から3年生は強制的に放課後子ども教室に参加しなければいけないのか。

【グループ長】 希望者のみである。

【G委員】 料金は両方出さなければいけないのか。

【グループ長】 両方支払う必要はない。お迎え時間が4時30分を超える際は月額3千円支払っていただく必要がある。

学校を通じて現小学1年生、小学2年生の方には案内を配布する。新小学1年生は4月以降に案内を配布する。

【C委員】 志水小学校の一体型は教室を分けて行うのか。

【グループ長】 放課後児童クラブ棟のみで1階、2階と分けて行う。人数の状況を見ながら使い分けをする予定である。

【C委員】 放課後子ども教室は小学3年生までとする理由があるのか。

【グループ長】 法的に決まりがあるわけでない。今後、学年の拡充も検討の余地はある。

【C委員】 現在放課後子ども教室を利用しているが、子どもたちが進んで先生のお手伝いをしたり、学年関係なく皆がなかよくできている。上の子たちから学ぶことも多い。今後高学年も参加できれば先生の負担も減る。ぜひ拡充してほしい。

【子ども応援課長】 次年度より小学校の部活が廃止となる。放課後児童クラブは以前、小学1年生から小学3年生までしか利用ができなかった。そ

の後小学6年生まで利用できるよう拡充を行った。今後年齢の拡充等頂いた意見も参考にしながら取り組んでいく。

【 G 委 員 】 部活を廃止することは聞いているが代替の策が必要ではないか。

【子ども応援課長】 部活の廃止に伴う子どもの居場所については今後も学校と連携をとっていく。今回頂いた意見は教育委員会に伝えておく。

【 A 委 員 】 学校から放課後児童クラブまでは距離があるのか。雨の日は大変ではないか。

【グループ長】 子どもたちは今も歩いて移動している。時間として10分もかからない距離である。

【 E 委 員 】 今後は豊山小学校、新栄小学校も一体型となるのか。

【グループ長】 現時点では今の場所で行っていく、理想は学校の敷地内で行いたいと考えている。実現できるように取り組んでいく。

【 D 委 員 】 外遊びは全部のなかよし会でできているのか。

【グループ長】 志水なかよし会、新栄なかよし会のみである。

豊山なかよし会は大きいホールがあり子どもたちはホールで遊んだり体を動かしている。豊山なかよし会の屋外は広場はあるが、フェンスがないので目が行き届かないという理由で行っていない。

【生活福祉部長】 放課後児童クラブと子ども教室についてたくさんの意見を賜り感謝申し上げます。所管が違った事業を今回子ども応援課が所管となり皆が平等にサービスを受けられるよう努めていきたい。頂いたご意見を参考に努力してまいります。

【 会 長 】 議題は以上である。進行を事務局に返す。

【子ども応援課長】 以上をもって豊山町子ども子育て会議を終了する。